

秋の信農路を行く

24回生修学旅行ノイ

去る十月、二班に分けて第十四期生の修学旅行が行なわれた。一班は、一、二、五、六組で十三日～十七日まで、二班は、四、七、八組で十四日～十八日までであった。二班に分けたため、学年の親睦がはかれないなど多少の不満も出たが、行つてみるとクラスの親密感の方が増したようだ。又、二班のコラスファイヤーが雨のためとりやめにならなくてはならなかったことは残念だった。

今回の修学旅行は、一班の先発の日が雨だったりして、少し天候には恵まれなかつたが、又そのため親睦がはかれたこともあったようだ。尚、新聞部員が一班に片寄つていたので、記事も一班に片寄つたことを了承下さい。

◎第一日目△

一班
二班
三班

十一月十四日
十一月十五日
十一月十六日

宿舎「蓼科観光ホテル」に到着した。

▽第二日目△

一班

十一月十七日

第四日目△

一班

十一月十六日

第五日目△

一班

十一月十七日

第六日目△

一班

十一月十八日

第七日目△

一班

十一月十九日

第八日目△

一班

十一月二十日

第九日目△

一班

十一月廿一日

第十日目△

一班

十一月廿二日

第十一日目△

一班

十一月廿三日

第十二日目△

一班

十一月廿四日

第十三日目△

一班

十一月廿五日

第十四日目△

一班

十一月廿六日

宿舎「蓼科観光ホテル」に到着した。

第一日目△

一班

十一月十三日

第二日目△

一班

十一月十四日

第三日目△

一班

十一月十五日

第四日目△

一班

十一月十六日

第五日目△

一班

十一月十七日

第六日目△

一班

十一月十八日

第七日目△

一班

十一月十九日

第八日目△

一班

十一月二十日

第九日目△

一班

十一月廿一日

第十日目△

一班

十一月廿二日

第十一日目△

一班

十一月廿三日

第十二日目△

一班

十一月廿四日

宿舎「蓼科観光ホテル」に到着した。

第一日目△

一班

十一月十三日

第二日目△

一班

十一月十四日

第三日目△

一班

十一月十五日

第四日目△

一班

十一月十六日

第五日目△

一班

十一月十七日

第六日目△

一班

十一月十八日

第七日目△

一班

十一月十九日

第八日目△

一班

十一月二十日

第九日目△

一班

十一月廿一日

第十日目△

一班

十一月廿二日

第十一日目△

一班

十一月廿三日

宿舎「蓼科観光ホテル」に到着した。

第一日目△

一班

十一月十三日

第二日目△

一班

十一月十四日

第三日目△

一班

十一月十五日

第四日目△

一班

十一月十六日

第五日目△

一班

十一月十七日

第六日目△

一班

十一月十八日

第七日目△

一班

十一月十九日

第八日目△

一班

十一月二十日

第九日目△

一班

十一月廿一日

第十日目△

一班

十一月廿二日

第十一日目△

一班

十一月廿三日

宿舎「蓼科観光ホテル」に到着した。

第一日目△

一班

十一月十三日

第二日目△

一班

十一月十四日

第三日目△

一班

十一月十五日

第四日目△

一班

十一月十六日

第五日目△

一班

十一月十七日

第六日目△

一班

十一月十八日

第七日目△

一班

十一月十九日

第八日目△

一班

十一月二十日

第九日目△

一班

十一月廿一日

第十日目△

一班

十一月廿二日

第十一日目△

一班

十一月廿三日

宿舎「蓼科観光ホテル」に到着した。

第一日目△

一班

十一月十三日

第二日目△

一班

十一月十四日

第三日目△

一班

十一月十五日

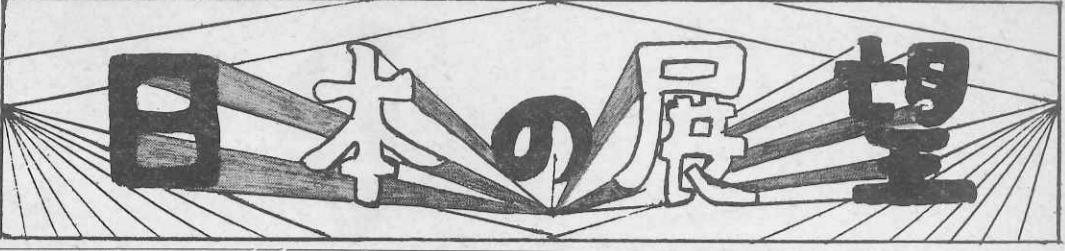
第四日目△

一班

十一月十六日</

總括

日本にとって1970年代とは、重要な年代であることは、まちがいない。そして、その70年代には何が起こるか予測できないであろうわれわれ高校生は、その70年代を動かしていく「ヤング・パワー」となるわけである。だから、われわれはじっくりと社会の流れを見つめ、次々に起こる諸問題と積極的に、正面から逃げ腰にならずに取り組んでいこうではないか。日本は挑戦していく。そしていつかは全世界の王座にたどりつくだろう。



経済 未来に向かつて

日本の世界への挑戦

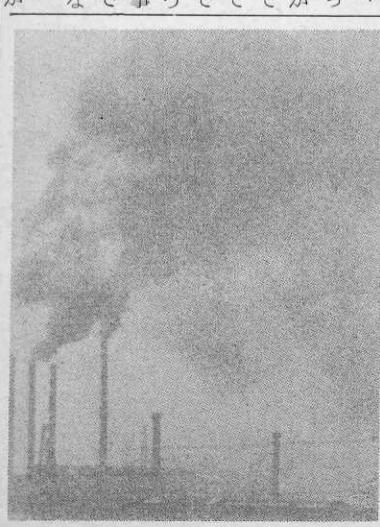
「日本の過剰成功は、西欧諸国やアメリカ諸国等の白人のおごりたかぶつた精神を打ちくだくであろう。」日本の経済成長は、確かに二次世界大戦で徹底的にたたかれた。特に、広島や長崎などの原爆投下地では、当分の間草木は生えないだろうといわれたほどである。それでもかわらず、日本経済は大きいかつ急速に発達した。その証拠に、西ドイツは、経済が急速に発展した国ではあるが、日本のGDP (Gross National Product) 国民総生産は以下GNPと略記) が、その西ドイツのGNPを一九六八年に超越した。これで日本は共産圏諸国を除いてアメリカに次いで第二位となつたわけである。それに、一平方キロメートルあたりのGDPは、参考図で示すように世界一である。しかしなぜ日本経済は戦後このように発達したのだろうか。独自の考え方もあるが、アメリカやソ連では、トルコあたりのGDPは、参考図で示すように世界一である。しかしなぜ日本経済は戦後このように発達したのだろうか。独自の考え方で、日本人は勤勉でよく働く。このようにして、日本が豊かな経済を築いたのである。アメリカは現在世界一の経済大国である。そのアメリカのいうところの発展を試みるべきではないだろ
うか。しかし経済が発達したからといって、上手調子になつていてはいけない。日本には、数多くの悲劇がある。『交通戦争』といわれる交通事故の多発問題、『社会福祉』の問題、それから『老人問題

	A	B	C	D	E	F
	総面積 (1,000 km ²)	森林面積 (%)	耕作物 (%)	森林面積を引 いた面積 (1,000km ²)	BとCを引 いた面積 (1,000km ²)	km ² {D(森林を 除く)}当たりの G N P (1,000ドル)
日本	370	68.7	18.8	116	46.2	1,228
イギリス	244	7.4	80.4	226	29.8	441
西独	248	29	57	176	34.7	750
アメリカ	9,363	32.2	47.2	6,348	1,928	136
ソ連	22,402	40.7	26.8	13,239	2,688	22

公害

交通問題

発達と滅亡・破壊



大気汚染の最大の原因は煙突のけむり

